

ザ・クインテッセンス／2012. 8月号

○知っておきたい顎関節の機能解剖学的知識 (阿部伸一 井出吉信)

＊臨床医にとって顎関節の内部の構造がイメージできることは、咬合再構築など大規模な補綴処置にかかわらず重要である。本稿では、顎関節の断面を下顎頭滑走の連続写真として掲載しており、解剖学的な重要事項とともに解説している。また、顎関節周囲の神経の走行や外側翼突筋などの付着状態も鮮明に剖出写真として掲載している。特に顎運動を患者個々の顎関節の形態と機能から診ることができれば大きな診断力につながるであろう。

○集中連載／骨膜グラフトの可能性を探る 第2回骨膜グラフト：スタンダード編 遊離歯肉 (白石和仁 佐竹田久)

＊第1回の総論として骨膜グラフトの解説に続き、第2回から症例とイラストでそのテクニックを詳細に供覧している。症例として深くて広範囲に渡る骨欠損や根分岐部病変を含む大きな骨欠損への対応を、切開・縫合の詳細を写真とわかりやすいイラストで手技的な注意点を述べている。骨膜グラフトを行う適応症を理解する上での必要事項が網羅されており臨床応用できるのではないと思われる。

日本歯科評論／2012. 8月号

○特集／歯冠色修復材料の新たな潮流——チェアサイドに伝えたいラボサイドからの提案 (新藤有道 斉藤 勇 他)

＊近年におけるセラミックの進歩によりオールセラミック修復は現実のものとなりました。CAD/CAMの技術の進歩も手伝い適合、審美性、強度すべて向上してきています。しかしあまりにたくさんのセラミックの種類があるためどう使い分けたらよいかわかることはありませんか？本特集ではセラミックの種類と特徴、そして臨床での使い方など大変参考になるものになっています。

○歯科医師が知っておくべき“がん”の知識—

—歯周病と“がん”との関わりについての最新情報 (草間 薫)

＊1981年以来日本人の死因第1位を占め、しかも年々平均寿命の伸びとともに増加している“がん”。歯科医師が知っておくべき“がん”の一般的な知識や歯周病との関連まで解説しています。がんについてなんとなくわかってはいるけれどもという方、是非もう一度整理しましょう。

デンタルダイヤモンド／2012. 8月号

○実践歯科ライブラリー／Ni-Ti ファイルの実力 ～効率的な根管治療を求めて～

(海老原 新 阿部 修 山田國晶、他)

＊Ni-Ti ファイルの特性と利点・欠点を示し、歯内療法だけで考えると採算が合わないが、治療全体でみると無駄な再治療をなくし、メリットはあることを述べられています。その後、歯内療法の専門家が最新のNi-Ti ファイル、プロテーパーユニバーサル・TFファイル・GT Xの特徴と臨床例を記載しています。さらには、Wave one, Reciproc, SAFのこれから国内販売されるファイルについても記載されています。これからの歯内療法には必要な情報です。

○歯科臨床次の一手／インプラント症例の安全な設定と咬合構成とは

～的確な診断用ステントとサージカルガイド、そしてロードコントロールを～ (小出 馨 他)

＊サージカルステントの製作手順と活用の仕方を説明し、臨床例として、シングルクラウン、上顎全部総義歯・下顎 Br、上下顎 Brの咬合の与え方を解説しています。さらに、歯肉退縮を起こさないよう開発された Biohorizons Laser-lok Microchannels Implant System について解説しています。2つとも最新の歯科治療を知る上で必読の内容です。

歯界展望／2012. 8月号

○特別企画／吸着して機能的な総義歯臨床のポイント —総論編 無歯顎の特徴と義歯の動き (齋藤善広 仙台市開業)

＊本企画では「総義歯の総論」と題して、吸着義歯を製作する上で理解しておくべき点について、以下の3点に分けて述べている。

- ① 無歯顎者に生じている口腔環境の特徴
- ② 機能時の義歯の動き
- ③ 下顎総義歯の吸着

筆者は、岡山市の臨床放談会で講師として呼び出され、阿部二郎先生のフレームカットバックトレーを用いた枠なし印象法からスタートしている。そして、安定してよく咬める義歯を目指し、吸着と咬合を同時に具現化することで、義歯の機能時の性能が向上するといい、下顎の軟組織と骨の変化も詳しく解説している。さらに印象法、咬合採得の勘所も述べている。